

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和四年二月度 入賞句一覧 投句数 五百八十六句



特選

大堀 武直 選

あんぱんを二つに割りて春隣

静岡県静岡市 松永 信介

あんぱんを二つに割って誰かと分け合うのだろうか。中から餡が飛び出す、その気分を季語「春隣」に象徴させた取合せの句。おいしいものを頬張る前の弾む心と春をすぐそこに感じ待つ心の共通性を想像させる。

目の見えぬ子に握らせる雪つぶて

大垣市 末守 節子

今年は何度も雪が降った。そして、積もった。雪を握り固めて投げるのは、人が自然に行う遊びである。目の見えぬ子に雪礫を作って渡し、その冷たさを感じさせ、思い切り投げさせたのであろう。子の驚きと喜びの表情が見えてくる。

ふらここを降りて地球に帰還せり

愛知県名古屋市長 舘野 茂子

ふらここ（ぶらんこ）は、暖かくなつて戸外に出て遊ぶもので、春の情感が相應しい。ぶらんこを大きく揺らすと確かに無重力を感じる。しばらく漕いで地面に降りたところをオーバーに表現したところが面白い。

秀逸

孫増へて八福神の宝船

大垣市 安田 むつこ

若い人迎へ拍手の初句会

大垣市 傍島 隆

鉄瓶に神の水受け福沸し

大垣市 井沢 美志津

丹田に迷ひ鎮めて弓始

岐阜市 田中 淳子

常備薬いつも机上に日脚伸ぶ

大垣市 村田 通夫

天仰ぐ万の枝先春立てり

養老郡養老町 田中 紫香

開け放つ母亡き部屋の春障子

兵庫県神戸市 岸下 庄二

拝殿の日向へこぼれ初雀

安八郡神戸町 高橋 泰

貨車続く永き踏切風花す

不破郡垂井町 小坂 久美子

葛湯吹く古き昭和をかたりつつ

愛媛県松山市 平野 ヒサエ

入選

冬満月伽藍の反りの影深し

大垣市

北浦 典子

樞や明日へつなぐ鍛冶屋の火

安八郡輪之内町

野村 照子

青空の裂けんばかりに冴へ返る

東京都世田谷区

関戸 信治

寒玉子ことばやさしく届けられ

大垣市

秋山 くに子

心まだ老いを拒みて寒の紅

兵庫県芦屋市

田原 トミエ

みゆき晴数多の光ころげ落つ

大垣市

松岡 みつ

樞や百年同じあんの味

岐阜市

日比野 祥子

寅の威を受けて寿くお元日

不破郡垂井町

清水 るり

塵ひとつなき土間に立つ寒の入

大垣市

遠藤 加容子

葉牡丹に吸い込まれゆく朝日かな

大垣市

早笈 千恵子

日脚伸ぶ雲ゆるやかに四方の山

大垣市

神野 武彦

喧嘩鴨池に光を撒き散らし

大垣市

岡田 あや子

山眠るジビエ料理の峽の宿

大垣市

新町 恵子

白杖をとめて仰げり梅三分

大垣市

白井 秀子

掻き揚ぐる湖のしたたり蜷舟

岐阜市

堀江 美州

冬枯に郵便ポストただ赤し

大垣市

宮上 美濃留

銀翼の音なき二機や初御空

大垣市

高津 喜久子

長寿眉湯気にくゆらせ根深汁

静岡県藤枝市

山本 和美

雪礫君の笑顔のをせて来る

大阪府東大阪市

森 佳月

年迎ふ昨夜の枕を裏返し

大阪府堺市

椋本 望生

選者吟

真ん中に聖火のトーチ六つの花

武直

一般の部

